

「各自治体の広報課題の解決」

大学 (成果報告書 作成者)	会津大学短期大学部 産業情報学科 高橋研究室 教授 高橋延昌 短大2年 山口夏琳・岡田海佳瑠
自治体	会津若松市 企画政策部 秘書広聴課
その他関係者	
(1)調査研究 の課題・背景	近年、スマートフォンの普及に伴い、SNSによる情報発信や情報交換が身近なものとなってきているなど、情報の伝達において著しい変化が生じている。これにより、従来の主要な情報発信方法である広報誌の在り方や、新しいデジタルコンテンツの導入等、自治体の情報発信においても対応が求められている。一方で、高齢者がすすんでいる会津地域においては従来型の広報媒体（紙媒体や回覧板など）についてのニーズも大いにあり続けている。 そこで、会津地城市町村の個別の広報課題について調査研究し、今後の広報施策に反映できるよう調査研究を行う。
(2)令和5年 度調査研究活 動内容	令和5年度は会津若松市内に住んでいる方を対象とし、街での暮らしやすさ向上やイベントなどをより楽しんでもらい長く住み続けたいと思われるような完成イメージで広報誌のリニューアルを目指した。 サンプルA・B・Cを通じたアンケート調査を経た分析結果について、さらに本研究では具体的な提案をおこなうため「広報あいづわかまつ2024年2月号」を想定した広報誌プロトタイプ（試作版）を完成させた。実際の広報誌プロトタイプは別冊にまとめたとおりである。
(3)令和5年 度時点の結果	市政だよりとして行政的な情報提供を重視すべきという考え方もあるが、多くの市民が興味を持つようにするために導入部分となる特集ページは重視すべきである。特集ページは広い読者層に訴求するため、まずは手にとってもらうための「顔」もしくは「入口」に位置づけられている。どのような特集ページにするかについては市民へのアンケート調査が効果的で、多く集まった回答から潜在的なニーズを素早く探し出すためには本研究で試みたような生成AI活用が効率的かつ有用的であろうと考えられる。
(4)提言また は今後の展開	本研究における特徴の一つは、デザインを学ぶ学生が中心になって進められたので、抽象的な質問ではなく、具体的にオリジナル制作されたサンプルも含めてアンケート調査することができたことである。被験者が比較検討できる複数のサンプルを提示することによって、具体的かつ個別のテーマごと意見収集することができた。 本研究では生成AI（ChatGPT）を活用し、定量的データ（選択された回答）と定性的データ（記述された回答）を同時に分析する新しい手法を試みた。生成AIによって必ずしも唯一無二な正解が導き出されるものではないかもしれないが、集められた回答群から素早く対象者ごとの傾向や編集方針を検討する判断材料に成り得る可能性がみられた。

「会津DX日新館」令和5年度調査・研究
テーマ：各自治体の広報課題の解決
「会津若松市民に伝える広報誌リニューアル」

INDEX

0. はじめに	2
A. 事例調査	4
B. フィールド調査	7
C. サンプル制作	8
D. アンケート調査	9
Q1～10 アンケート調査結果から導き出された市民の要望	12
E. プロトタイプ制作	22
F. 考察	26

0 はじめに

SNSによる情報発信が主流となる現在の広報誌の在り方を探ってみた。若者が読みやすいと思える紙面を目指すため、本研究は、具体的なサンプルを通じたアンケート調査や、生成AIを活用しながら調査をすすめた。

スマートフォンの普及に伴い、SNSによる情報発信や情報交換が主流になるなど、情報の伝達方法が変化している。従来の主要な情報発信方法である広報誌の在り方や、新しいデジタルコンテンツの導入など自治体の情報発信においても対応が求められている。市の広報誌の在り方や自治体の情報発信方法を見直す必要があると考えられ、市内に住んでいる人を対象とし、街での暮らしやすさを向上させたりイベントなどをより楽しんでもらうことで長く住みたいと思われる街にするような広報誌のリニューアルを目指した。

「広報誌」もしくは「広報紙」は、企業・学校・自治体などの団体が、活動内容や運営方針を周知するために情報をまとめた制作物を指すが、公益社団法人日本広報協会では『新聞紙が「紙」、雑誌が「誌」と使い分けられているように、タブロイド判など新聞紙型の場合は「広報紙」、A4判などの雑誌型の場合は「広報誌」と表記するのが、一般的な考え方と言える』(出典: <https://www.koho.or.jp/useful/qa/hyouki/hyouki04.html>)と述べられているとおり、A4判雑誌型の体裁であるならば「広報誌」が本来相応しいと思われる。また、県内でも市の広報は「市政だより」と称する場合が多いが、広報誌と市政だよりの違いや明確な定義はみられないようである。町村の広報と区別するために、市政を強調してきただけのようにも思われる。そのため、本研究においてはなるべく用語として「広報誌」に統一している。

担当学生は、図1にあるような若者が読みやすい紙面のイメージを目指してリニューアル化を目指したが、学生の独り善がりにならないように、図2のような流れで研究をすすめた。



写真で表紙をうめるのではなく、余白をのこしてスッキリさせる。



モジ"でうめず"にイラストでいにぎやかに、よこがきでスマホでもよみやすくする。

図1 担当学生が当初イメージしていた広報誌のリニューアル化

本研究の特徴としては、デザインを学ぶ学生が中心になって進められ、抽象的な対象ではなく、具体的なサンプルを実際にオリジナル制作し、サンプルを通じて具体的な意見を収集したことである。成果として最終的には広報誌のプロトタイプを制作したが、具体的な成果物があることによって具体的かつ個別のテーマごと考察していくことができた。また、市民のニーズを把握するためアンケート調査をおこなうことが定石であるが、本研究では生成AI(ChatGPT)を活用し、定量的データ(選択された回答)と定性的データ(記述された回答)を同時に分析する新しい手法を試みた。これによって、集められた回答からどのような編集方針ですすめていくべきかという判断の材料となることが今後容易になることが考えられる。

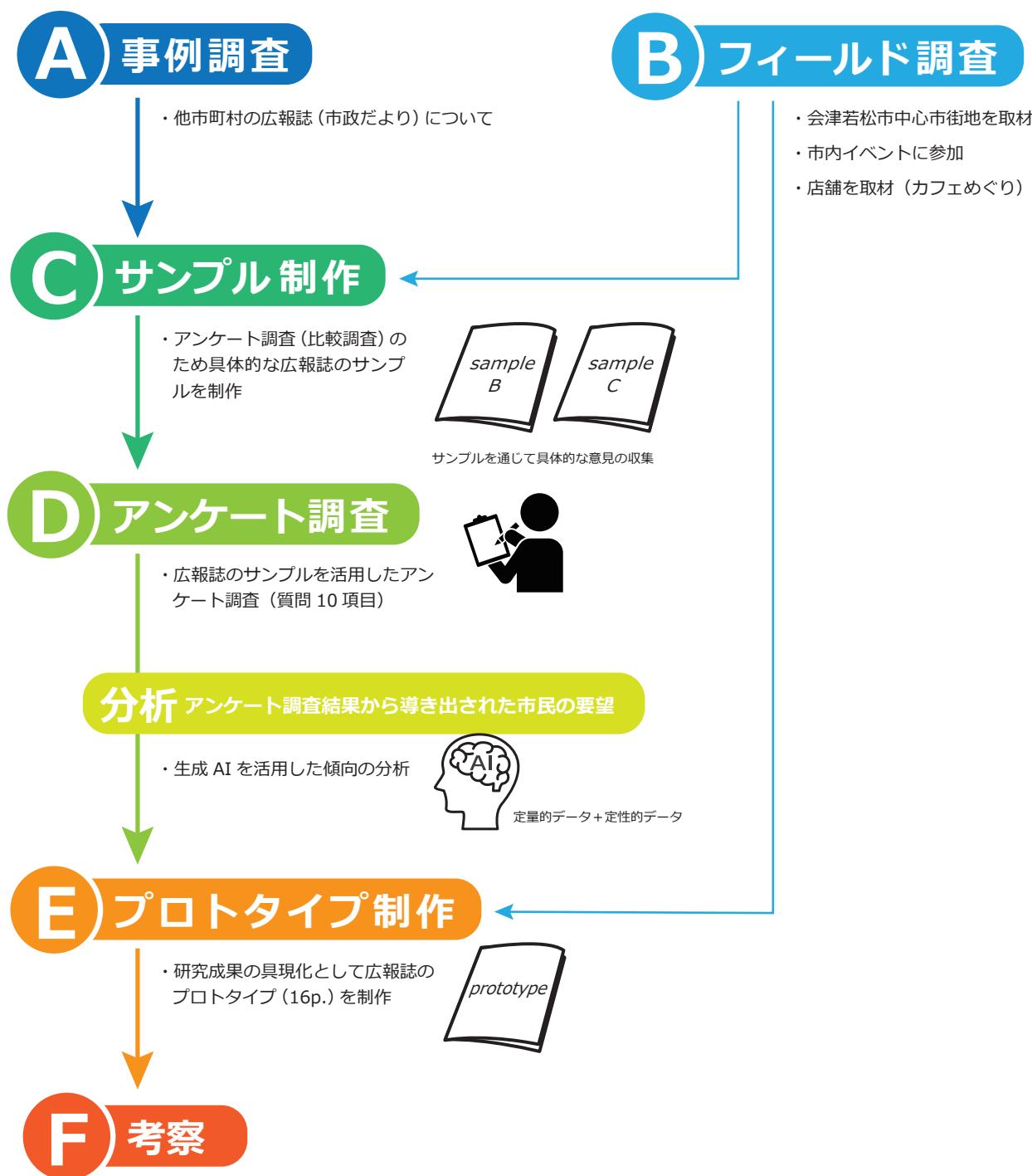


図2 研究の流れ

A 事例調査

他市町村の広報誌（市政だより）を比較調査したり、先行研究のデータを活用し、広報誌の現状について広く知るようにした。

図3のとおり実際に広報誌を編集制作している様子を見学したり、図4のとおり他市町村の広報誌（市政だより）を比較調査をおこなった。先行研究によって福島県内の広報誌について概要は、平均23ページの内容で、毎月凡そ1回発行されている。大きな市であれば数名の専属スタッフが担当しているが、小さな町村であれば、専属もしくは兼任で1～2名が担当している状態である。近年は紙媒体以外のSNSも活用して情報発信を試みているが、広報の専属が少ないため、県内でみてみると公式SNSの活用としては割合および発信頻度は決して多いとは言えない。

なお、多くの市町村では情報ページを中心に横組みが多くなっている現状であるが、未だに縦組み中心の時代にならって県内の広報誌では右開きのみである。全国では横組みに対応して左開きの例もある。

5～6ページに掲載されている図は、担当学生が気づいた他市町村の広報誌の特徴を列記している。



図3 会津若松市秘書広聴課で「あいづわかまつ市政だより」編集制作している様子を視察



図4 他市町村の広報誌を比較調査

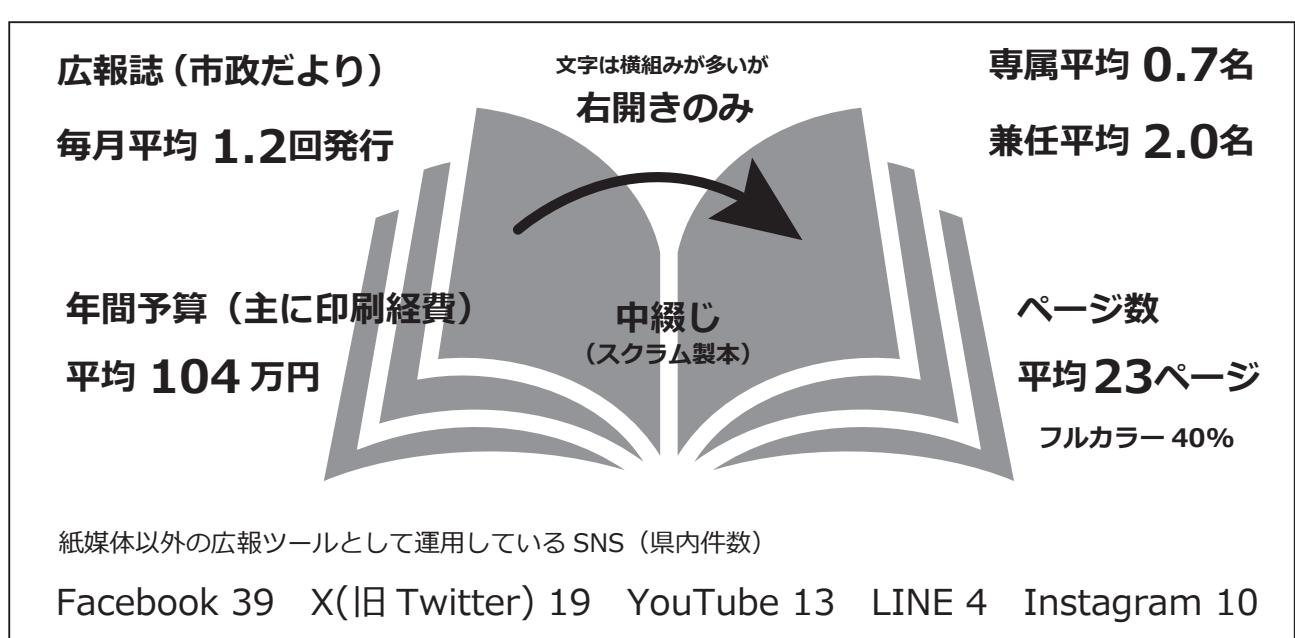


図5 県内で発行されている広報誌（市政だより）のデータ 出典：高橋延昌「福島県内自治体の広報広聴ツールに関する調査概要（2019年8月現在）

1.表紙に子供の写真を使っている

カメラ目線のもの

学校でのイベントを撮影しているものや、親子の様子を子供メインで撮影しているものが多い。

広報誌は高齢者が特に見るので、子供たちの元気な様子は需要があるように感じる。



〈喜多方市〉

自然な様子のもの



〈下郷町〉

親子が写っているもの



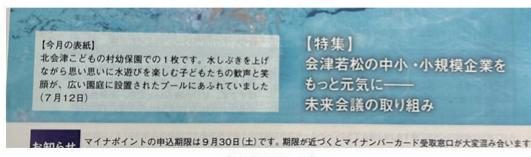
〈伊達市〉

2.表紙に目次や特集、写真の説明を載せている

表紙の説明 + 目次を記載しているもの

特に特集を大きく記載し、目次を小さく載せているものが多い。

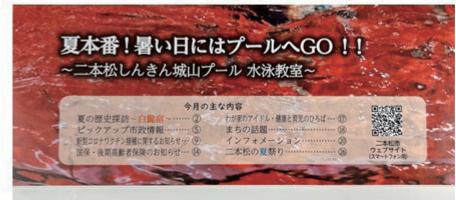
読み手が一目で見たいページを読めるようにしている。



〈会津若松市〉



〈須賀川市〉



〈二本松市〉

3.カレンダーをページの最後の方に載せている

大きく一面にカレンダーを載せているもの

広報誌ごとに、カレンダーのサイズや形式が大きく違っていた。

一目で市のイベントがいつ行われるのかが分かる。

裏表紙に大きく載せると、広報誌をそのまま部屋に飾るだけでカレンダーとしても使えるため、便利だと感じた。



〈二本松市〉



〈郡山市〉

4.特集は他とは違う魅力的なレイアウトにしている

2ページ使用して横に長い写真を大きく載せたり、人物を切り取つて細かく情報を載せている。白黒ではなく、カラフルなページになっている。

特集は広報誌のメインとなる部分でもあるため、読み手を引き付けるようなレイアウトを意識しているように感じる。

魅力的なレイアウト



〈下郷町〉



〈郡山市〉

5.情報ページにイラストや写真を載せる

情報をまとめするページは堅苦しくなりがちだが、**イラストや写真**をさりげなく載せてかわいらしいデザインにしている。

かわいらしいデザインになっており、**色**を統一しているのでまとまりを感じる。



〈郡山市〉

図 6-10 学生による他市町村の広報誌についての分析（主に気づいた箇所）

B) フィールド調査

観光地としても有名な会津若松市の中心市街地を実際に街歩きするなどフィールド調査や取材をおこない、学生ならではの視点で街中の興味深いスポットを発見するようにした。そういうたった視点は、市民が望む情報を提供する方針にもつながった。

調査対象である会津若松市は面積約 383km²、人口約 11.2 万人、人口密度 294 人 /km²、自然も豊かな田園地帯も広がっているが、本研究では主に中心市街をフィールド調査の対象とした。また、年間観光客入込数※は会津若松市内全体で 1,811,287 人、とくに鶴ヶ城（天守閣と麟閣をあわせて）が 548,990 人、市街地が 344,997 人と多いスポットになっている。図 11～14 のとおり、中心市街地は歴史情緒が溢れていて観光スポットとしても有名な場所が多く、学生が町歩きしやすいエリアでもある。

そういうたった町歩きしやすいエリアであったため、研究成果として若者が読みたくなる広報誌の導入として特集ページは中心市街地のカフェ巡りという企画にもつながり、また、市民を対象としたアンケート調査においても観光スポットを紹介するページを望む意見が多かった。



図 11 会津若松市大町通りの散策



図 12 会津若松市野口英世青春通りにある「福西本店」の視察



図 13 会津若松市七日町通りにある会津バーガー「ラッキースマイル」の視察



図 14 会津若松市庁舎工事中の仮囲いに学生達の作品が掲示されている現地を視察

※福島県商工労働部観光交流課「福島県観光客入込状況」令和 4 年分

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/592795.pdf> (2024 年 2 月 15 日現在)

C)サンプル制作

本研究の特徴として、広報誌のサンプルを実際にオリジナル制作したことであり、サンプルを通じて具体的かつ個別的な質問（アンケート調査）をおこなうことができると考えられた。

担当はデザインを学ぶ学生であるため、事例調査の後は広報誌のサンプルを実際に制作した。それによって、抽象的かつ総合的な質問でなく、具体的かつ個別的な質問ができると考えられた。

サンプルAは、現状ある広報誌の例として既製の「あいづわかまつ市政だより」2023年3月号を活用した。

サンプルBは、表紙、特集ページ、うら表紙（書き込み式カレンダー）によって構成された学生による新たな広報誌スタイルを制作した。紙面は「緩い／親しみやすい」イメージにまとめた。

サンプルCは、表紙、特集ページ、うら表紙（あいづの冬をテーマにした観光スポット紹介ページ）によって構成された学生による新たな広報誌スタイルを制作した。紙面は「かっちり／落ち着いた」イメージにまとめた。

図16のように、市の担当者とご相談の上、広報誌のサンプル（A・B・C）を活用したアンケート調査を実施することになった。



図15 各サンプルの表紙



図16 会津若松市秘書広聴課ご担当者と調査サンプルについて相談している様子

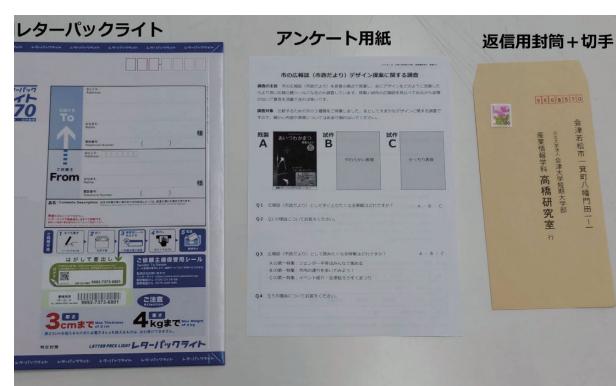


図17 アンケート用紙の送付および返信用封筒など

D) アンケート調査

被験者 123 名に対して、選択式と記述式によるアンケート調査を実施し、表紙、特集、トピックス、配布などについてサンプルを参照しながら回答してもらった。

図 19 のようなアンケート用紙を作成し、用紙に匿名で回答もしくは WEB フォームへ入力してもらうようにした。具体的なサンプルを提示したためか、自由記述欄にはほとんどの方が記述回答してくださった。

調査期間は 2023 年 12 月 27 日から 2024 年 1 月 15 日までにおこなった。



図 18 サンプルとアンケート用紙を提示しながら調査をおこなった様子

2023 年 12 月 公立大学短期大学部 音楽情報学科 高橋セミ

市の広報紙（市政だより）デザイン提案に関する調査

調査の主旨 市の広報紙（市政だより）を若者の視点で見直し、主にデザインをどのように改善したらより良い広報広聴ツールになるのか調査しています。既製と試作の広報紙を見比べていただきながら忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

調査対象 次の 3種類をご用意しましたので、最も該当するものを一つお選びください。主として大きなデザインに関する調査ですので、細かい内容や表現についてはあまり触れないでください。

既製 **A** 表紙 

サンプル **B** 表紙 

サンプル **C** 表紙 

回答方法
お問い合わせ窓口へお問い合わせ
お問い合わせ窓口へお問い合わせ
お問い合わせ窓口へお問い合わせ
QRコードを読み取ってフォーム
に記入ください。

Q1 広報紙（市政だより）として手にとりたくなる表紙はどれですか？ **A · B · C**

Q2 Q1 の理由についてお答えください。

Q3 広報紙（市政だより）として読みたくなる特集はどれですか？ **A · B · C**

A の特集：ジェンダー平等はみんなで進める
B の特集：会津の工芸 × カフェめぐり
C の特集：イベント情報・会津絵ろうそくまつり

Q4 Q3 の理由についてお答えください。

裏面もあります⇒

Q5 うら表紙のトピックスとして読みたくなる特集はどれですか？ **A · B · C**

A のトピックス：FARMER（市内の農業従事者を紹介）
B のトピックス：月間カレンダー（書き込み式）
C のトピックス：あいづの冬（景色・グルメ・観光の紹介）

Q6 Q5 の理由についてお答えください。

Q7 紙面全体の雰囲気について、最も良いと思われるものはどれですか？ **A · B · C**

Q8 Q7 の理由もしくは理想とする広報紙（市政だより）の在り方について教えてください。

Q9 市の情報は紙や電子など様々な媒体で提供されていますが、主にどのような情報提供であれば適切であると思われますか？

① 主に紙媒体にして、各戸へ配布してほしい。（従来どおり）
② 紙媒体であっても、各戸へ配布しなくともよい。必要に応じて入手する。
③ ホームページで自ら閲覧できるから、印刷したり配布したりする必要がない。
④ SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で配信してほしい。
⑤ そもそも不要である。

Q10 最後に、ご回答者について教えてください。

年齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
性別	男性	女性					
職業	生徒学生	自営業	会社員	団体職員（公務員）	他		
住所	会津若松市内	他					

★本紙は統計的に処理させて頂きますので、個人が特定されることはございません。ご協力ありがとうございました。

図 19 アンケート用紙（A4 判／両面）

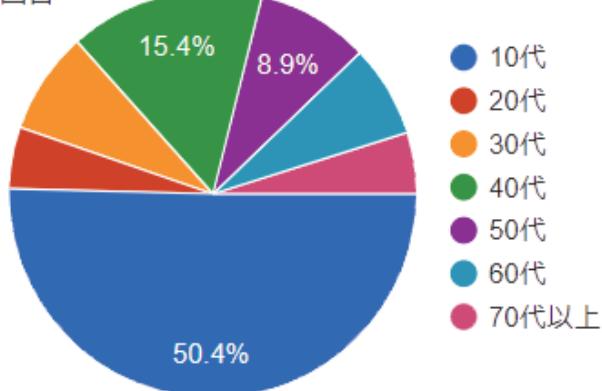
Q10 回答者について

アンケート回答者を大まかにいえば、社会人 44 名、市政モニター 12 名、学生（会津短大生）67 名の合計 123 名である。時間の都合もあり、回答者は学生（会津短大生）の割合が多い。そのため、年齢層は 10 代（18 歳か 19 歳）が半分を占め、性別は女性が 7 割以上を占めている。

しかしながら、本研究の経緯である若者をターゲットにした場合の提案であることを鑑みれば、研究のねらいには合致する回答者（調査対象）であると考えられる。

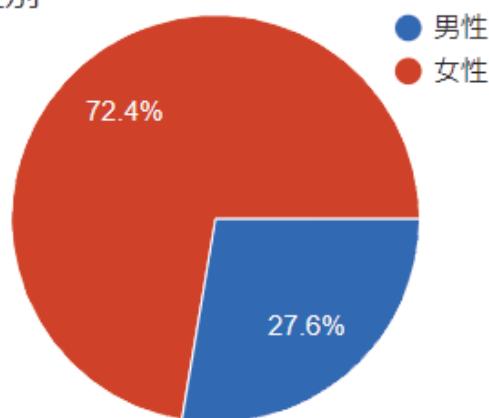
Q10-1 年齢

123 件の回答



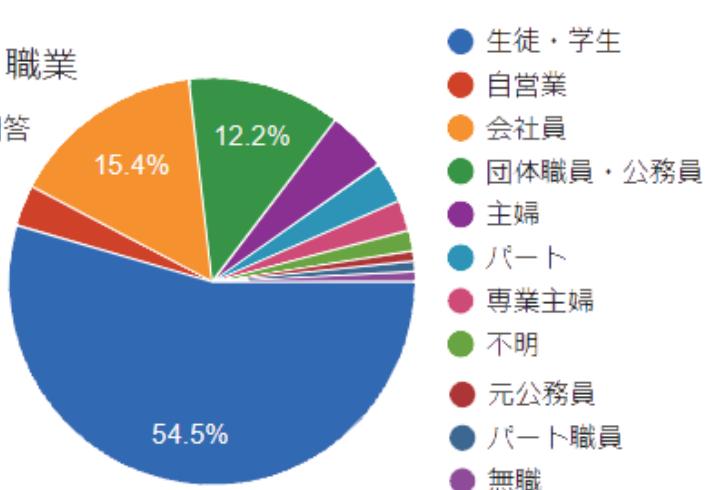
Q10-2 性別

123 件の回答



Q10-3 職業

123 件の回答



生成 AI を活用した分析

本研究では回収したアンケート結果から市民の要望を掘り起こし、さらにデザイン提案するため、最近目覚ましい発展を遂げている生成 AI (Artificial Intelligence) を活用した。

例えば図 23 のように AI を活用した漫画制作を参考にした。生成 AI 活用ではネット上にある無数のデータ（文章など）から自動的に生成されて引用元が分からぬことが社会的課題になっているが、この例では特定の作家の過去作品（著作権管理されている著作物）だけを AI が学習したことクリアしている。そのように、本研究では事前に統計処理することを伝えた（承諾されている）アンケートのレコードのみ AI に学習させている。

適切なプロンプト（指示）さえ与えれば、AI は自動的に多数あるアンケートのレコードを学習し、簡潔かつ分かりやすく分析結果をまとめてくれる。そのことによって、今後対処すべき方針も決めやすかった。

次頁からはそれぞれの分析結果について概要を述べる。

「TEZUKA2023」ができるまでの4ステップ

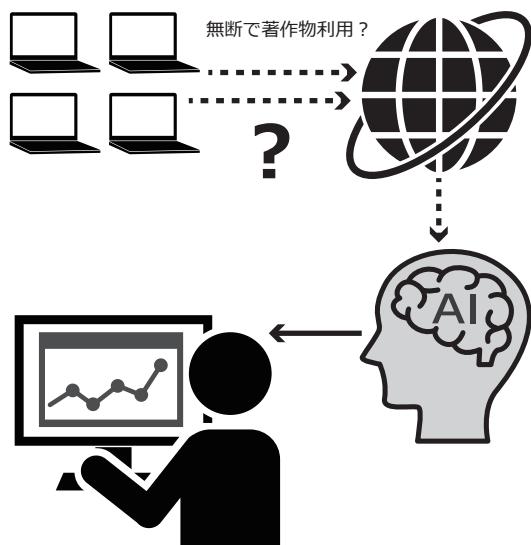
1. プロット生成（大まかな物語の流れや登場人物を決定）
2. シナリオ制作（キャラクターのセリフや、細かい話の流れを文章で作成）
3. キャラクター制作（新キャラクターのデザインの原案を生成）
4. コマ割り～ペン入れ（人間の手で、漫画の形にして完成）

出典：週刊少年チャンピオン 2023年 12月 7日号「漫画界の神様に AI が挑む新作読み切り！ TEZUKA 2023 ブラックジャック」

図 23 週刊少年チャンピオン 2023年 12月 7日号の表紙



生成 AI 活用で指摘される社会的課題



本研究で試みた生成 AI 活用プロセス

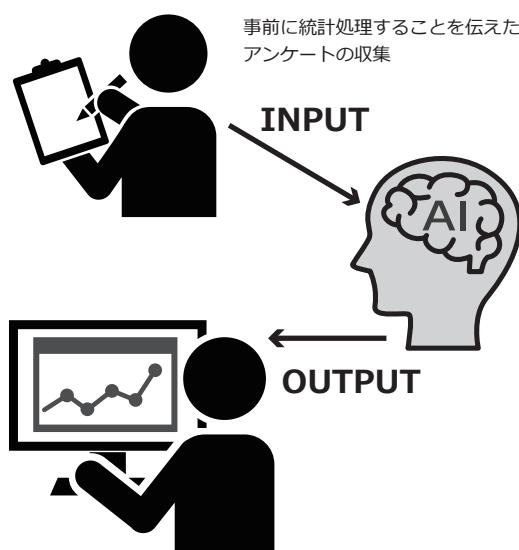


図 24 生成 AI の課題と本研究で試みた生成 AI 活用プロセス

Q1-2 表紙について【アンケート調査結果から 導き出された市民の要望】

表紙のサンプル（A・B・C）を見比べた場合、単純な選択肢では好みが拮抗していた。しかし、自由記述において選択した理由と照らし合わせると市民の要望を掘り起こしやすかった。

表紙のデザイン候補に対する意見の傾向として、全面に写真が掲載されていたり、内容として親子や子供である人間味あふれるコンテンツが好評であった。また、市の象徴である鶴ヶ城が掲載された表紙や、落ち着いた歴史ある雰囲気が好まれる傾向もみられた。なお、表紙の写真は写真のみで成立するものではないのだから、タイトルや文字情報との組み合わせに、さらに特集ページとの関連性にも配慮しておく必要がある。

以上のことから、表紙はなるべく市を象徴するシチュエーションで（とくに会津若松市においては会津の歴史風情あふれる場所で）、親しみが持てる被写体（モデル）と組み合わせることが適切であると方向が導き出された。

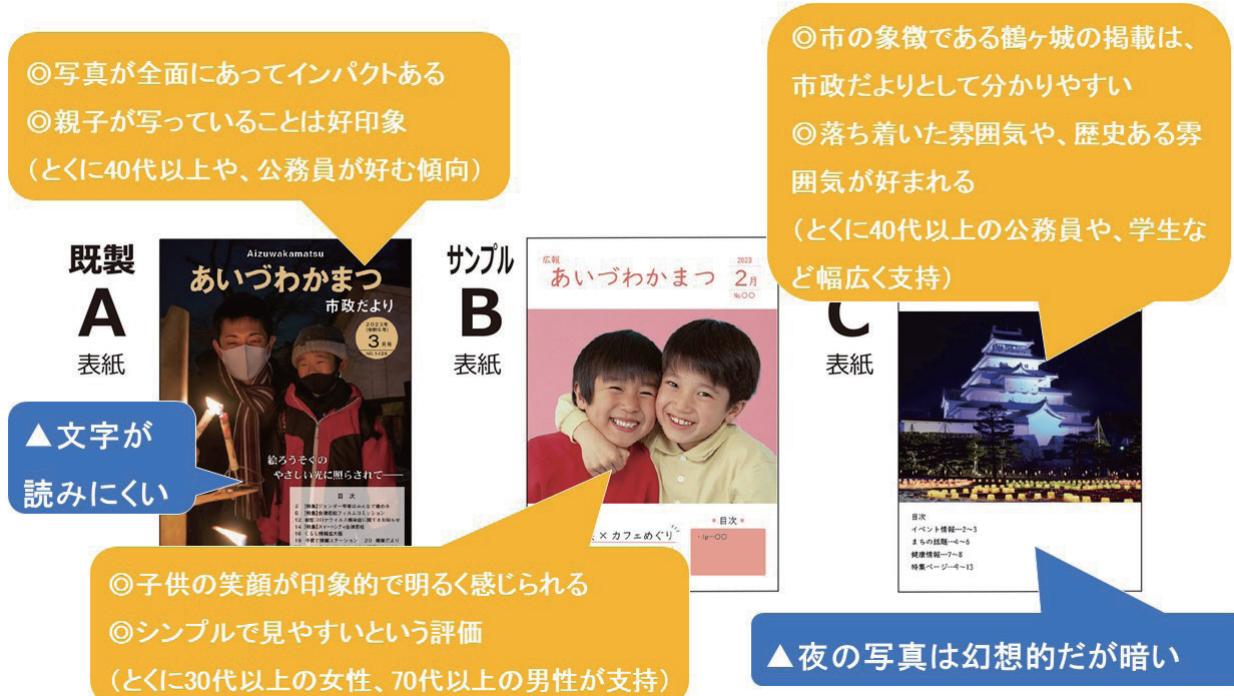


図 25 各サンプルの表紙に意見まとめ

Q1 広報紙（市政だより）として手にとりたくなる表紙はどれですか？

123 件の回答

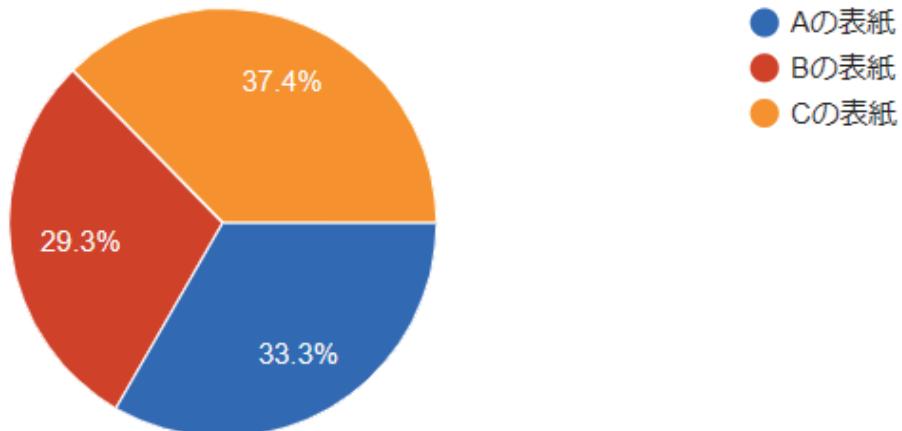


図 26



ChatGPT

アンケート結果をまとめると、以下のような傾向が見受けられます。

表紙の候補に対する傾向:

- **Aの表紙 :**

- インパクトがあるとの意見が多く、写真を全面に使っていることが評価されている。
- 40代以上の男性や女性、団体職員・公務員などが好む傾向がある。
- 「絵ろうそくの優しい光や文字、雰囲気が魅力的」といったコメントもあります。

- **Bの表紙 :**

- 子供の笑顔が印象的で、明るく感じられるという意見が多い。
- シンプルで見やすいという評価があり、カエメグリのキャッチフレーズが好評。
- 30代以上の女性や専業主婦、70代以上の男性などが支持している。

- **Cの表紙 :**

- 会津若松市の象徴である鶴ヶ城が掲載されており、市政だよりとしてわかりやすいという意見が多い。
- 落ち着いた雰囲気や新鮮さ、歴史ある雰囲気が好まれている。
- 40代以上の男女や団体職員・公務員、学生など幅広い層に支持されている。

今後のデザインの方向性:

- **写真の活用 :**

- 全体に映った写真やクローズアップされた人物が好評であるため、これらの写真を活用することが良い。
- 子供の笑顔や家族のあたたかさが魅力とされているので、これらの要素を取り入れることが重要。

- **インパクトと視認性 :**

- インパクトがあり、見やすいデザインが好評であるため、表紙においてもこれらの要素を重視すべき。
- 色の使い方や文字のデザインにも注意を払い、視認性を高める工夫が必要。

- **地域性の表現 :**

- 会津若松市の象徴である鶴ヶ城やイベントの写真が好評であるため、会津らしさを表現する写真を選定することが重要。

- **ターゲット層の考慮 :**

- 年齢や職業によって好みが異なるため、広報紙のコンテンツやデザインには幅広い層を考慮することが重要。

これらの傾向を踏まえ、今後の広報紙のデザインにおいては、会津らしさや地域性を大切にし、写真の選定やデザインにおいて視認性やインパクトを考慮した表紙を制作することが提案されます。



図 27 ChatGPT によるアンケート【Q1-2 表紙】について分析結果

Q3-4 特集について【アンケート調査結果から】

特集ページのサンプル（A・B・C）を見比べた場合、読みたくなる特集はサンプルBの支持が圧倒的に多かった。サンプルBの特集は老若男女問わず興味がある市内のカフェを巡りながら会津の伝統工芸を紹介するものであったが、そのような多くの方に興味をもつ切り口から入っていく編集は効果的だと思われる。

AIの総括で述べられているとおり「総じて、地域の魅力を引き立てつつ、読者の好奇心をくすぐる要素を取り入れた広報紙デザインが望まれ」と結論づけられる。

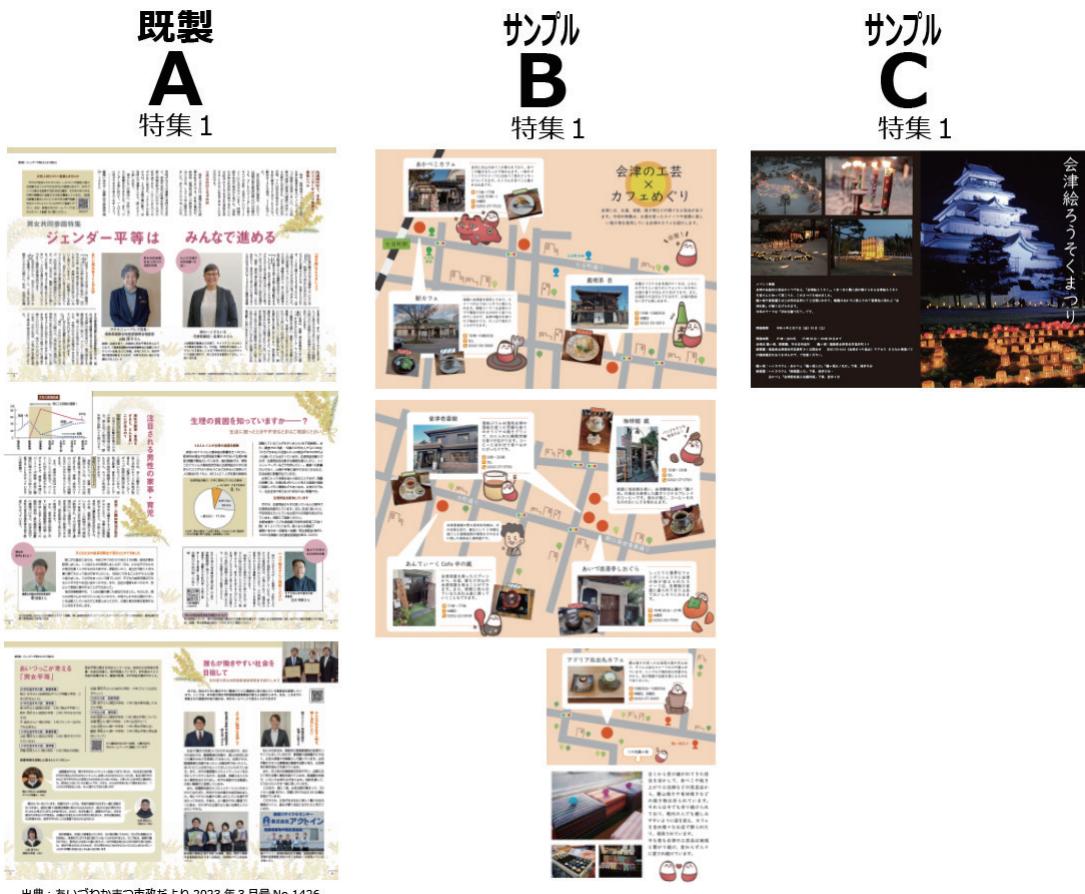


図 28 各サンプルの特集ページ

Q3 広報紙（市政だより）として読みたくなる特集はどれですか？

123 件の回答

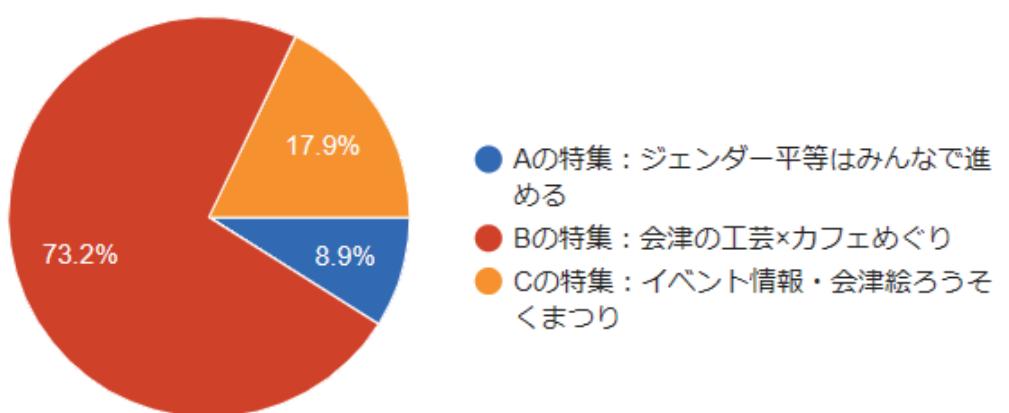


図 29



ChatGPT

アンケート結果の要約:

1. 特集B（会津の工芸×カフェめぐり）に関する傾向:

- ・幅広い年代層に人気で、特に30代から60代以上の男女が支持している。
- ・購読者が市政だよりとして読みたくなる要素として、情報と写真のバランス、見やすい構成、興味深い題材が挙げられている。
- ・地元のお店の紹介があり、新しい情報を得ることができるという期待がある。
- ・カフェ巡りや工芸に関連する写真やイラスト、地図の使用に好評。

2. 特集A（ジェンダー平等はみんなで進める）に関する傾向:

- ・特に30代から60代の男性が支持しており、内容の豊富さや意義が評価されている。
- ・文章が多く、理解が難しいという意見もあるが、好奇心を刺激する内容に期待が寄せられている。

3. 特集C（イベント情報・会津絵ろうそくまつり）に関する傾向:

- ・イベント情報に興味を持つ層が主に40代以上の男女で、会津若松市の特有のものに关心を寄せている。
- ・写真や構成には好感が寄せられているが、一部読みにくいと感じる声もある。

今後のデザイン方針:

1. 特集Bのような地元のお店や観光情報が豊富な特集が広報紙の読者に受け入れられやすいことが分かった。これを踏まえて、地域の魅力を伝える特集を増やすべき。
2. 特集Aのように意義のあるテーマも需要がありますが、読みやすさに配慮することが重要です。図やイラストを活用し、分かりやすい形で情報を提供すると良いでしょう。
3. 特集Cのようなイベント情報も需要があるが、読みやすさに工夫が必要。写真や構成のクオリティに注意を払い、読者がスムーズに情報を得られるようにする。

総じて、地域の魅力を引き立てつつ、読者の好奇心をくすぐる要素を取り入れた広報紙デザインが望まれます。

□ △ ▲ ○

図 30 ChatGPT によるアンケート【Q3-4 特集】について分析結果

Q5-6 うら表紙について【アンケート調査結果から】 導き出された市民の要望】

うら表紙に掲載することを想定したトピックスとしては、市の話題を紹介するコンテンツとして、地域の季節感や観光スポットをストレートに紹介するサンプルCに支持が集まっていた。一方で、サンプルBのカレンダーは実用性を重視したデザインが好評であったが、市のイベント情報をもっと組み合わせるべきとする意見も多くみられた。サンプルAのような特定人物を採り上げること自体は好評であったが、対象となるテーマ設定はニーズに合わせた方がよい傾向がみられた。

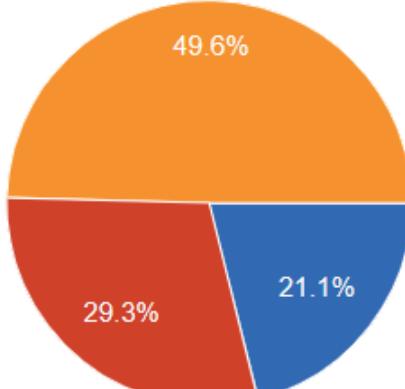


出典：あいづわかもつ市政だより 2023年3月号 No.1426

図31 各サンプルのうら表紙

Q5 うら表紙のトピックスとして読みたくなる特集はどれですか？

123件の回答



- Aのトピックス : FARMER (市内の農業従事者を紹介)
- Bのトピックス : 月間カレンダー (書き込み式)
- Cのトピックス : あいづの冬 (景色・グルメ・観光の紹介)

図32



ChatGPT

アンケート結果を簡潔にまとめると以下のようになります：

トピックス候補ごとの傾向：

- **A (FARMER：市内の農業従事者を紹介) :**
 - 年代別傾向：20代から70代以上まで広く支持。
 - 理由：市内の様子を知りたい、現在進行中の活動や若者の頑張りに興味あり。
- **B (月間カレンダー：書き込み式) :**
 - 年代別傾向：10代から70代以上まで支持があり、特に20代・30代・40代に強い。
 - 理由：カレンダーと行事がリンクしていて実用的、可愛いデザインが好評。
- **C (あいづの冬：景色・グルメ・観光の紹介) :**
 - 年代別傾向：20代から70代以上まで支持があり、特に30代・40代・50代に強い。
 - 理由：季節感を感じる内容が好評で、会津の冬の景色やグルメに興味あり。

デザインの方向性：

- **Aの特徴：**
 - 年齢層に関係なく広く支持されているが、特に若い世代にアピールする新鮮な情報や活動に焦点を当てるが良い。
- **Bの特徴：**
 - 年齢層が広いが、特に20代から40代に支持が強い。カレンダーの可愛いデザインや実用性を重視したデザインが好評。
- **Cの特徴：**
 - 年齢層が広いが、特に30代から50代に支持があり、季節感や会津の冬の情報に重点を置いたデザインが良い。

デザイン上のアプローチとして、Aは市内の新しい情報や若者の活動に焦点を当て、Bは可愛いデザインと実用性を強調し、Cは季節感や地域の情報に焦点を当てる方向でデザインすると良いでしょう。また、カレンダーには市のイベント情報を組み込んで広く利用価値を高める工夫が求められています。



図 33 ChatGPT によるアンケート【Q5-6 うら表紙のトピックス】について分析結果

Q7-8 全体の雰囲気について【アンケート調査結果から 導き出された市民の要望】

広報誌の全体的な雰囲気として、サンプルAは既製であるから当然馴染みがあるという感想が目立っていたが、サンプルCの鶴ヶ城や会津絵ろうそくまつりといった市民に分かりやすいモチーフが最も支持を集めていた。会津若松市においては鶴ヶ城が市民にとって一目で（市の広報だと）分かりやすい被写体であることが分かる。一方で、総じてサンプルBは内容として親しみやすく、手に取りやすいという点で支持を得た。

紙質について、サンプルAとCはコート紙（光沢紙）であったが、アラベールホワイト（非光沢紙）を使用していたサンプルBは紙の肌触りも好評であった。肌触りは良いが写真についてはコート紙の方が再現性が高いため、最終成果物であるプロトタイプでは、コート紙とアラベールホワイトの中間に位置する上質紙を採用することにした。

既製
A
表紙



出典：あいづわかまつ市政だより 2023年3月号 No.1426

紙質：コート紙

サンプル
B
表紙



紙質：アラベールホワイト

サンプル
C
表紙



紙質：コート紙

図34 各サンプルの表紙および紙質

Q7 紙面全体の雰囲気について、最も良いと思われるものはどれですか？

123 件の回答

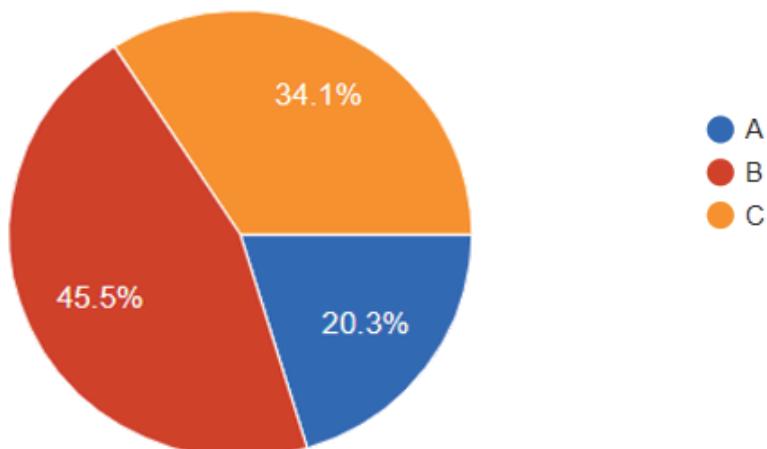


図35



ChatGPT

アンケート結果をまとめると以下のような傾向があります。

A案

- 30代男性団体職員：しっかりと伝えるべき情報を記載すべき。
- 60代女性専業主婦：市民と市政をつなぐ情報が必要。特集や若者向けのストーリーがあると良い。

B案

- 30代男性団体職員：読み手が取っ付きやすく、パッと見てわかるデザインが重要。
- 50代女性パート：市民が情報を得やすく、紙の材質が良い。
- 60代男性団体職員：市政だけよりは明るく楽しい情報が好ましい。
- 10代から70代以上までの生徒・学生や市民：親しみやすく、読みやすく、手に取りやすいデザインが好まれている。

C案

- 30代男性団体職員：市民が欲しい情報を絞り込んで伝えるべき。
- 40代女性主婦：特集にはカフェ・グルメ・買い物スポットなどを取り入れてほしい。
- 60代女性自営業：全体的に鶴ヶ城のイメージが良い。
- 10代から70代以上までの生徒・学生や市民：地元の魅力を伝え、手に取りやすく、一目で興味を引くデザインが好まれている。

総括

- 広報誌のデザインにおいては、B案が親しみやすく、手に取りやすいという点で支持を得ています。また、情報は簡潔で分かりやすく、特に市民が求める情報に焦点を当てることが重要です。
- 特に若者層にアクセスしやすいデザインやコンテンツも求められており、多世代に対応する広報誌が理想とされています。



図 36 ChatGPT によるアンケート【Q7-8 全体の印象】について分析結果

Q9 媒体について【アンケート調査結果から 導き出された市民の要望】

現状の広報誌は紙媒体での配布を基本としているが、図37のようにWEBページで閲覧することも可能であり、SNSを通じて知ることもできる。AIの総括で「10代の学生は主にデジタルメディアを好む傾向があるため、SNSやホームページでの情報提供が適している」としつつ、多くの世代にとってまだまだ紙媒体にこだわる傾向がみられる。情報を一覧したり、回覧物を同封して配布する上でも紙媒体の有用性がみられる。

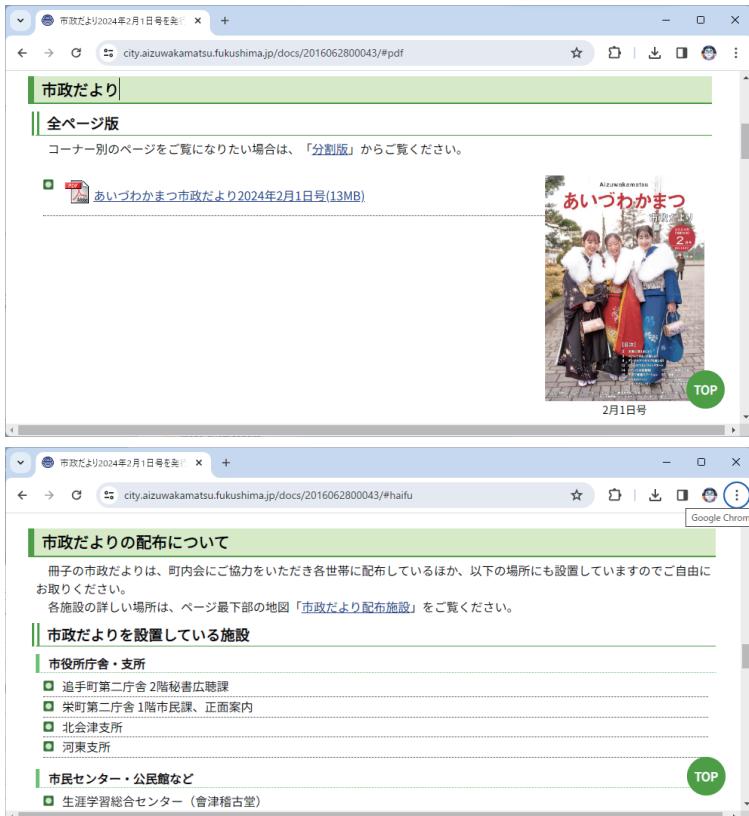
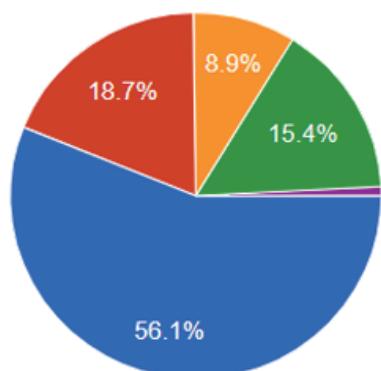


図37 会津若松市が毎月1日に発行する市の広報誌「あいづわかまつ市政だより」最新号のPDF形式ファイルを掲載
<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2016062800043/>
2024年2月15日現在

Q9 市の情報は紙や電子など様々な媒体で提供されていますが、主にどのような情報提供であれば適切であると思われますか？

123件の回答



- 主に紙媒体にして、各戸へ配布してほしい。（従来どおり）
- 紙媒体であっても、各戸へ配布しなくてよい。必要に応じて入手する。
- ホームページで自ら閲覧できるから、印刷したり配布したりする必要がない。
- SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で配信してほしい。
- そもそも不要である。

図38



ChatGPT

アンケート結果の傾向をまとめると以下のようになります：

1. 紙媒体にこだわる傾向：

- ・ 年代：20代から70代以上
- ・ 職業：団体職員・公務員、会社員、自営業、主婦、パート

2. 紙媒体への配布に反対する傾向：

- ・ 年代：10代
- ・ 職業：生徒・学生

3. ホームページやSNSでの配信を希望する傾向：

- ・ 年代：10代から60代以上
- ・ 職業：主婦、生徒・学生、会社員、自営業、パート

4. 情報提供の必要性に応じた入手を望む傾向：

- ・ 年代：10代から50代以上
- ・ 職業：生徒・学生、団体職員・公務員、会社員、自営業、主婦、パート

総合的な分析から、異なる世代や職業の人々が異なる情報収集の好みを持っていることがわかります。今後の媒体活用の方向性としては、以下の提案が考えられます：

1. 多様な媒体での情報提供：

- ・ 紙媒体だけでなく、ホームページやSNSを活用して情報を提供することで、広い層に情報を届ける。

2. 配信形式の多様化：

- ・ 年代による好みの違いを考慮し、紙媒体の配布にこだわる一方で、ホームページやSNSを活用してデジタルで情報を提供する。

3. 必要に応じた入手の柔軟性：

- ・ 紙媒体にこだわる人々には引き続き配布を行いつつ、デジタル媒体を活用し、必要に応じて情報を入手できるようにする。

4. 生徒・学生向けのデジタル配信：

- ・ 10代の生徒・学生は主にデジタルメディアを好む傾向があるため、SNSやホームページでの情報提供が適している。

これらの提案を組み合わせ、市の情報提供を多様な媒体を通じて効果的に行うことができるでしょう。



図 39 ChatGPT によるアンケート【Q10 媒体】について分析結果

E) プロトタイプ制作

本研究の成果を具現化するため、「広報あいづわかまつ 2024年2月号」を想定した広報誌のプロトタイプを完成させた。学生ならではの視点で制作し提案するものである。

サンプル A・B・C を通じたアンケート調査を経て、本研究では「広報あいづわかまつ 2024年2月号」を想定した広報誌のプロトタイプを完成させた。具体的な広報誌のプロトタイプは別冊のとおりであるが、本報告書においてはプロトタイプの特徴を述べる。

プロトタイプの構成

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1P 表紙 | 14P あれこれカレンダー 2月 |
| 2~6P 特集1 「会津の工芸×カフェめぐり」 | 15P 今月の病院情報 2月 |
| 7P トピックス 「あいづの冬」観光スポット紹介 | うら表紙 2月カレンダー |
| 8~9P 特集2 「会津絵ろうそくまつり」 | (書き込み式／市の行事予定 WEB ページにリンク) |
| 10~13P くらし情報あらかると | |



図40 完成した広報誌（市政だより）のプロトタイプ（A4判／フルカラー／16ページ）

【表紙のプロトタイプ】

アンケート結果より、表紙の写真は大きく掲載することが好まれる傾向がみられたため、ほぼ全面掲載であるが、表紙に掲載する特集や目次の可読性を考慮し、下部分は白帯とした。また、会津らしさが好まれる傾向を鑑みて、市のシンボル・鶴ヶ城を背景にして、担当学生がモデルになって写真を撮影した。

表紙

アンケート調査より
写真を大きく使いインパクトを出し、
会津らしさと(子供の)笑顔を組み合わ
せたものに

事例調査より
特集を大きく記載し、興味をもたせる
目次を載せて一目で見たいページを読
めるように



広報
あいづわかまつ 2024.2月
No.1437

特集① 会津の工芸 × カフェめぐり

会津には、お酒、漆器、焼き物など様々な工芸品があります。お酒を使ったスイーツや、食器に美しい焼き物を使用している会津若松市を中心市街地のカフェをご紹介します。

特集② 会津絵ろうそくまつり「平和を願う灯り」

目次

会津の工芸 × カフェめぐり	2~6
ビハッキすゞ・あいづの春	7
会津絵ろうそくまつり	8~14
くらし情報あらかると	15~17
あれこれカレンダー	18
今月の農業情報など	19

【特集ページのプロトタイプ】

もともとサンプルBのため作成した特集ページ「会津の工芸×カフェめぐり」をほぼそのまま流用したが、実際に取材し、それぞれの店舗で工芸品を使った商品やその魅力についてまとめた。さらにそれら商品の魅力が紙面で伝わるようかわいいオリジナルイラストも描いて配置した。



中心市街地の現地視察を通して…

市民に市内を知ってもらうきっかけを作りたい

「カフェめぐり」が良いのではないか？

「会津の工芸」をキーワードに特集を制作

取材に行き、それぞれのお店の工芸品を使った商品やその魅力についてまとめた

その商品の魅力が伝わるよう、イラストも描いた



酒粕ぷりん

会津塗り

会津慶山焼き など…

【ユニバーサルデザイン対応】

ユニバーサルデザイン対応として、本文テキストに「UD デジタル教科書体」、情報テキストに「BIZ UD ゴシック」のフォントを統一使用した。



BIZ UD ゴシック
UD デジタル教科書体

UDフォントを使用

本文をデジタル教科書体、時間や電話番号などの情報をBIZゴシックに

【情報ページの項目をアイコン化】

市のイベントなどをお知らせする情報ページにおいては、掲載する情報が多くなる傾向が強い。そのため、できる限り掲載する文字数を減らす必要があるが、繰り返し使用される頻度が高い項目名については全てアイコン化することによって文字スペースを大幅に節約することが可能である。

あいづ学園生

学びながら仲間づくりや生きがいづくりをしませんか。

開催時間…

○月○日午前○～午後○
○月○日午前○～午後○

活動内容… 交流会

場所… 会津稽古堂

その他条件…

満60歳以上の市民で、継続して受講できる健康な人
※初めて入学する人に限る

問い合わせ…高齢福祉課
(○○-○○○○)

あいづ学園生

学びながら仲間づくりや生きがいづくりをしませんか。

時…○月○日午前○～午後○

○月○日午前○～午後○

内…交流会

場…会津稽古堂

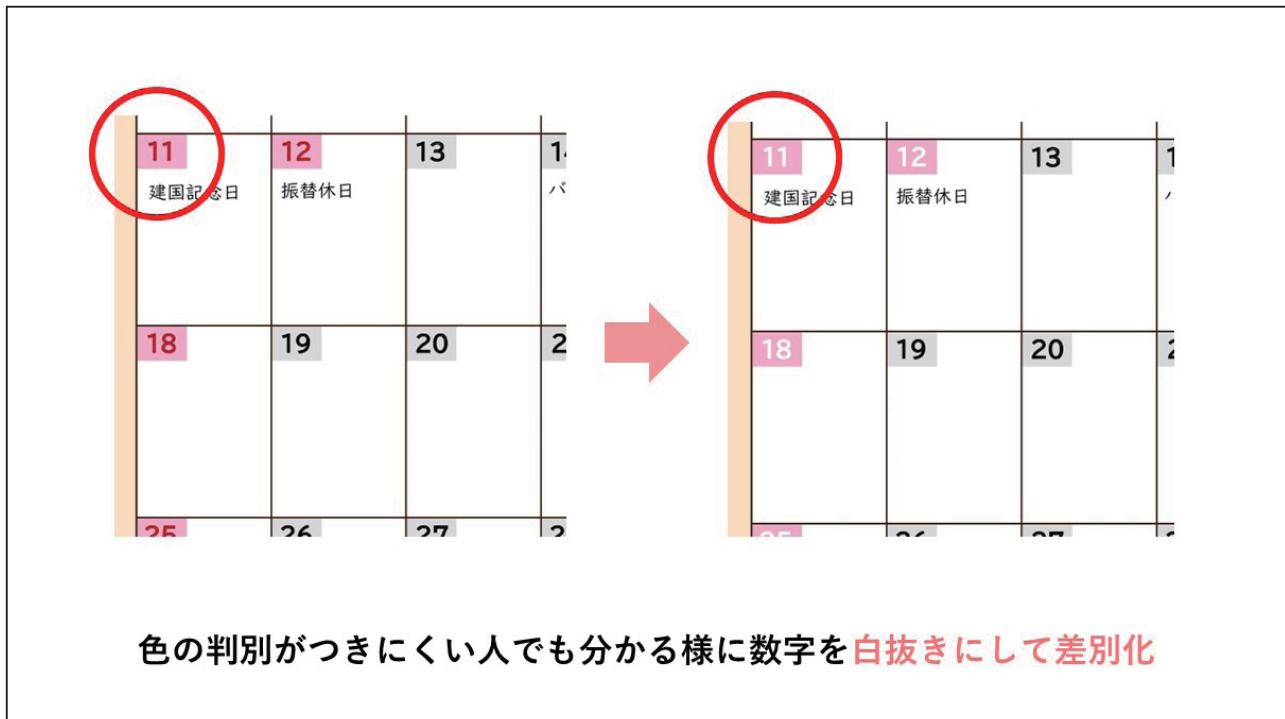
他…満60歳以上の市民で、継続して受講できる健康な人
※初めて入学する人に限る

問い合わせ…高齢福祉課
(○○-○○○○)

開催時間や活動内容などを長々と書くのではなくアイコン化することで見やすく、すっきりとしたレイアウトにしている。

【うら表紙に書き込み式カレンダー】

実用性を考えて、うら表紙には書き込みカレンダーを提案する。下図のとおり、カレンダーは部屋に掲示したり家具に貼るなど紙媒体ならではの有効活用も望める。また、色のユニバーサルデザインに配慮したり、二次元バーコードを活用することで市の行事予定（WEB ページ）へリンクし、詳細情報を知ることも可能となる。



F) 考察

市民が読みたくなる広報誌づくりのため、ターゲットを絞ることが鉄則だが、広報誌は様々な読者がいることを実感した。また、配布方法については今後新たな方法を模索する必要があるが、現状は紙媒体による配布が中心である。

先ず目指すべき広報ツールの在り方として、当該学生は若者が読みたくなる雑誌のような広報誌を当初イメージして取り組んだ。そのようなスタイルの広報誌は実際広報コンクールでも上位に入賞している。

しかしながら、雑誌のようなスタイルではなく、官報のようなスタイルを望む保守的な要望も少なからずあることが分かった（そもそも広報誌ではなく市政だよりであるという意見はいくつかあり）。本研究ではターゲットをどこに絞るのか悩んだが、老若男女問わず読んでもらえる広報誌を当初のコンセプトどおり目指すことにした。そのため、プロトタイプの表紙タイトルは「広報あいづわかまつ」とした。

行政からのお知らせを伝える情報ページもより読みやすくするが、それ以上に若年層が興味を持つため導入部分となる特集ページをとくに重視すべきだという考えにも至った。先ずは興味をもってもらうため、より興味深い特集テーマを企画することが要となると考えられる。特集ページは広い読者層に訴求するため重要であり、先ずは手にとってもらうための「顔」もしくは「入口」に位置づけられている。

そして、市民が興味をもつ特集などコンテンツの選定（いわゆる編集企画）については、下の回答例3のように定期的な市民へのアンケートが有効であろう。

多数ある回答から潜在的なニーズを効果的に発掘するには、本研究で試みたような生成AIによってターゲットごとの要望を分析するような手法が役立つであろうと考えられる。

【配布】

現状においては、市の広報（市政だより）とは別に関連団体からのお知らせ（チラシ）などを同封し、町内会を通じて配布されるしくみが主流である。そのため製本は中綴じ（針金なし／スクラム製本）となっている。

別紙を挟む込んで配布するしくみが主流であれば、やはり紙媒体の有用性がみられる。

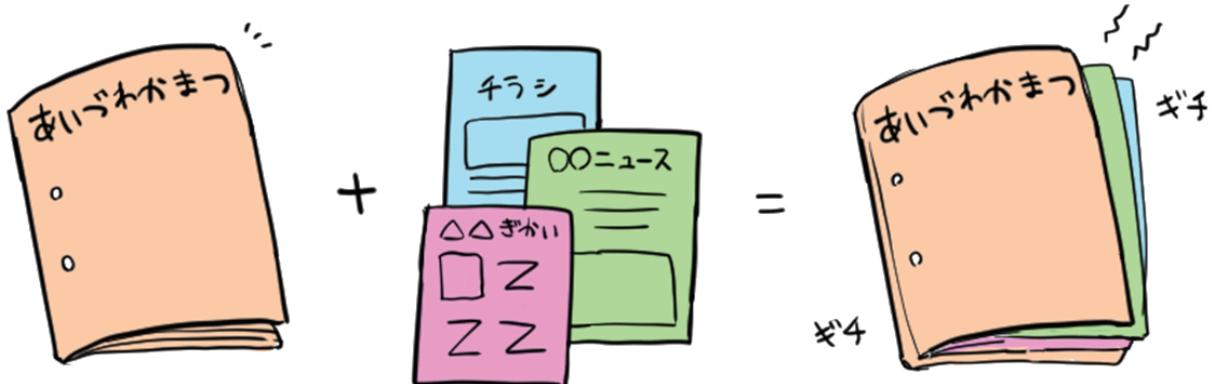


図 49 市政だよりが関連団体からのお知らせ（チラシ）などを同封して配布されるイメージ

町内会の所属していない市民が広報誌を入手する手段として会津若松市では公民館など市の関連施設での配布もおこなわれているが、図 50-51 のように他の市では一般市民が往来するような場所での配布もおこなわれている。待ち時間や手持ち無沙汰な時に入手して読むこともできる。



図 50-51 水戸市では大型ショッピングモールや市内コンビニエンスストア各店で他の広報物と一緒にラックで配布している。仙台市では市営地下鉄に専用ラックを設置し、配布している。

【位置づけ】

前述したとおり、内容を読んでもらうため、先ずは表紙や特集ページには市民が興味をもつコンテンツを掲載することが要となる。表紙と特集ページが関連できれば尚よい。



図 52 仙台市政だより 2024 年 1 月号は、仙台市出身で大人気の元フィギュアスケーター・羽生結弦氏を表紙に単独掲載し、市長との対談を特集している。

おわりに

一般的な情報ツールを制作する際、最も肝心なことは対象者が求める情報を効果的に提供することにあるが、自治体の広報誌が難しいことは対象者が絞り切れないことである。アンケート調査で分かったように、若い世代が求める情報と、保守的な年齢層が理想とする姿はかけ離れている。そういう現実はあるものの、本研究では少しでも若い世代が興味をもって読みたくなる広報誌の姿を探し求めた次第である。

担当学生の感想として「広報誌に残したほうが良い要素と新たに取り入れたほうが良い要素を知ることができ、現在の広報誌の在り方を見直すことができた」、「新しい要素を提案したことで、今後の広報誌がより発展していくことに繋がるのではないかと考えられる」とあるが、学生ならではの提案として受け止めて頂ければ幸いである。

最後に、本研究を推進していく上でご協力いただいた会津若松市企画政策部秘書広聴課広報広聴グループのご担当者様に御礼申し上げます。